

| | | | | | |
|--------|--------|---|---------|------|-----|
| 科目名 | 国際経営論 | 科目コード | 1207 | 単位数 | 3 |
| 担当者名 | 菊地 均 | 開講セメスター | 第5セメスター | 開講年次 | 3年次 |
| 授業の方法 | 講義 | 到達目標 | D.E | 実務経験 | 無 |
| ナンバリング | FOr506 | DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照 | | | |

● 授業のねらい

国境を越える経営、あるいは国境をまたぐ経営が国際経営である。本講義では国際経営に関する主要なテーマをできるだけ多面的に取り上げるため、日本企業だけでなく欧米企業、アジア企業の動きなども紹介し、グローバルな活動を担う人材養成をねらいとしている。

● 到達目標

国際経営の対象・歴史・理論、および国際経営環境との関連で重要になる主要課題など、国際経営および日本企業の海外経営に関する基本知識を身につけ、問題の把握力・的確な分析力を養うことを目標にしている。講義の中では国際経営に関するケーススタディを学びながら、その上で経営環境とイノベーションについての高度な専門的知識を修得できるようになる。

● 授業内容

- 1週目 国際経営の世界
- 2週目 多国籍企業の歴史
- 3週目 国際経営の制度と環境
- 4週目 国際経営の理論
- 5週目 国際マーケティング
- 6週目 海外生産とイノベーション
- 7週目 多国籍企業とグローバルイノベーション
- 8週目 国際研究開発とイノベーション
- 9週目 人的資源管理
- 10週目 国際財務管理 + レポート提出
- 11週目 国際経営組織
- 12週目 国際戦略提携
- 13週目 異文化経営
- 14週目 非製造業の国際経営 + 期末テスト
- 15週目 GAFAとデジタル資本主義
- 16週目 ポストコロナの世界と日本の経営。やむを得ず、15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講講義を行う。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

国際経営論 は を基礎として、その上で講義を進めるので、国際経営論 に対する理解力のある程度の水準が要求される。予習は事前に配布する講義資料を読み、自分の考えをまとめ、問題があれば、具体的にまとめて質問用紙にて提出してもかまわない。復習は講義での内容を体系的に整理し、小論文にまとめ、次回の授業に備える。なお、週6時間の予習・復習を行い、学期末には自己評価をしてもらう。毎週、自己点検シートを配付するので、必ず記入すること。

● 成績評価の方法・基準

成績は期末試験、レポート、授業への参加意欲などで総合評価する。

● 履修上の留意点

履修に際しての注意事項等の詳細は、1回目の講義の際に告知するので、受講を希望する場合は必ず出席すること。期末試験の講評は、15週目の講義の中で行う。なお、遅刻は原則として認めないが、やむを得ない理由により遅刻する際は必ず連絡を入れること。

● 課題に対するフィードバックの方法

提出された試験やレポートについては、コメントつけて次回の講義内に返却する。

● テキスト

特になし。ただし、必要に応じてプリントを配布する。

● 参考書

- 吉原英樹、白木三秀ほか編 『ケースに学ぶ国際経営』（有斐閣）3080円
- 菊地 均 『シュンペーターの資本主義論』（日本経済評論社）6050円

● 更新日付

2024/01/30 01:43